



# 情報技術による知の共有と演出

## 先端的な情報メディア環境

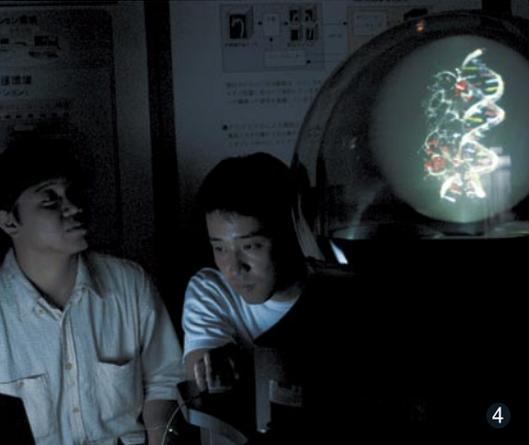
京都大学では、理工系学部のみならず人文社会系の学部においても基礎情報教育が行われています。その中核を担う学術情報メディアセンターは教育用計算機システムや KUIINS と呼ばれる高速ネットワークの展開により、本学の情報教育を支える先端的な情報メディア環境を創出しています。

学術情報メディアセンターは、「エクセレント・ユニバーシティー」に相応しい統合化された情報基盤の構築を目的に設立されたセンターで、京都大学の教育・研究におけるネットワーク・インフラストラクチャー整備からコンテンツ作成支援にいたるまで、すべての階層における情報サービスを提供しています。

教育用計算機システムでは、各学部のサテライト演習室や学術情報メディアセンター内に約 1,200 台のパソコンを設置し、授業に供するとともに、この内 240 台を「オープンスペースラボラトリ」として自習用に開放する運用で情報教育の場を提供しています。

また、遠隔講義支援サービスでは、分散した吉田・宇治・桂のキャンパスを含む学内 15 ヶ所にサテライト講義室を設置して遠隔講義の運用をしているほか、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) との間でも遠隔講義を実施するなど、その利用範囲は今後もさらに広がるものと期待されます。

さらに、センターの研究開発部では情報ネットワーク社会の高度化や、教育・研究の現場と情報ネットワーク社会とのマルチメディア情報技術による双方向・リアルタイムの統合を目指した研究開発を進めています。



- ①学術情報メディアセンター(南館) エントランスロビー
- ②③オープンスペースラボラトリ
- ④全方位型表示装置を使った科学技術計算結果の可視化
- ⑤スタジオにおける教材用映像の制作
- ⑥パソコンによる MRI データの 3 次元可視化